



審判の時

とうに、せいびまつりも終えたという

のに、「踊りたい！」というリクエストにあの日の曲を流し始めると、年齢を問わず、いつの間にか子どもたちが集まつてくる。音の力はすごい…と保育者。

てひろば「いづみ」のランランフェスタで披露する日。副園長から、そんなお誘いがあつたからだ。

かけて！」とその準備に余念がなく、当日の朝も「いつ行くの？」という子に、「一緒に行く人を誘つてきて！」と声を掛けると、集まりに集まつたのは総勢23名。そして向かつた「いづみ」には、想像以上のお客さんが。さすがに普段よりも動きが小さく、少し緊張気味のメンバーだつたが、2曲目になる頃にはそれもだいぶほぐれてきたようで、踊りにの世界に入り込んでいく。





ちが踊る横で手拍子を打つたり、拍手を贈つたりという者だつてある。  
地域の人たちも一緒になつて体を揺らす中、踊つたのかという事よりも、そんな自分なり参加の形を探す子どもたちの姿に、感動した保育者だつた（12月17日「ランランンフェスタ」より）。  
なんせ20人を超えるメンバー。その感受性だつてそれぞれだ。そんな一人ひとりの挑戦する姿を認め、「あの場にいた皆で踊りきつた」：敢えてそう表現した書き手の思いに、思わず共感してしまう。

今年度、数名の職員と「子ども理解」をテーマにした連続講座を受講しているのだが、前回の講義に登場したのが、「ギリギリアウト」という話だった。

時折耳にする「ギリギリセーフ」という言い回しには、「なんとか事なきを得たね」という少し安堵を含めた語感が漂うが、「ギリギリアウト」にそれはない。だって、それはアウトなのだから。強いてそこにあるものと言えば、それは苦笑いくらいだ

うか。  
とはいって、ルールはわかっているし、  
はなからそれを無視しようというわけで  
もなく、思いが溢れて、勢い余って、面  
白さを甚しきりなくて……そんな青が、

うか  
とはいえ、ルールはわかっているし、  
はなからそれを無視しようというわけで  
もなく、思いが溢れて、勢い余つて、面  
白さを堪えきれなくて…そんな心情が、  
ギリギリという表現に込められている。  
ギリギリアウト：子どものそんな姿を  
認めていく寛容さが、高揚感、感性、挑  
戦心、自己肯定感を引き上げていく。そ  
して何よりも、期待感と手応えを伴つて  
面白がって生きる子どもたちの今この瞬  
間を、大人の道徳やルールなんでもので、  
むやみに邪魔しないこと…ギリギリアウ  
トとはそういうことなのかなと、思いを  
巡らせながら講師の話を聞いていた。

面白がって生きる子どもたちの今この瞬間を、大人の道徳やルールなんでもので、むやみに邪魔しないこと…ギリギリアウトとはそういうことなのかなと、思いを巡らせながら講師の話を聞いていた。この講座は毎回、受講者から寄せられた前回の感想の中からいくつかを講師が選んで、前回の内容を振り返ることから始まつていく。

子どもたゞと煙で取れた野菜を洗いでいた時、偶然、蛇口にナスがくつつくと水が勢いよく飛び散ることに気づいたRくん。そのうちに、面白がってわざとやるよう。それに気付いたRくんも、同じように水を飛ばす。「水浸しになるからやめてよ。」と言いつと、「わざとじゃないよ。」「せうだよ、野菜洗ってるだけだもん」と2人。私もわざと野菜を蛇口に押し付け、2人に水を飛ばし、「わざとじゃないよ、野菜洗ってるだけ」と言いつと、2人も負けじと応戦してくる。

結果、3人でびしょ濡れのテラスを雑巾で拭く羽目に。「ね、ふざけると、こういう面倒臭いこともセットになるんですよ。」と言いつと、「でも、暑かつたからちょうどいいじゃん。」「気持ちよかつたよね。」と言いながら、雑巾掛けをする2人の顔は汗だくで、なんだか笑ってし

三  
一  
九

テラスのキッチン？…うちと似た風変わりな園もあるものだと、少しユーモアも漂うこの話を、面白がりながら聞いていた私。

すると翌日、当園のひとりから、「あれ、うちの園です。」どこか嬉しげに報告が：やつぱり。

人前で舞つてみせることをセーフとするのなら、いつかは踊りたいと願いながら傍らで手を打つ者たちは、ギリギリアウトなのだろうか。

大人たちのこしらえ枠組みなど、舌を出しながらひよいと乗り越えていく者たちへ、エールを送る。口の端に、ちょつと苦笑いを浮かべながら。

園長 折井誠司



夏のテラスのキッキンで、  
そして、このギリギリアウ  
の翌回の講義でも、ある受  
者の感想に添えられていた  
ピソードも紹介された。